

# 教えてモグラ先生！ ～田んぼの水はどこから来るの？～



## いのちの水を管理する

「農業用水」は、雨水や雪解け水が、川や沢、ため池に流れ込み、様々な施設で取水され、広大な農地を潤している。農業用水は、安定的な食料の生産や生態系の保全、防火用水などの多面的機能を持っており、しばしば「いのちの水」とも呼ばれている。

田んぼの水を安定的に確保するには、用水施設の日常管理（草刈りや施設点検、補修など）が大変重要であり、地元農家の方々や土地改良区、国、県、市町村など、たくさんの人たちが日々の管理に努めている。今回は、その田んぼの水がどのような施設を通り運ばれてくるのか、図を用いて紹介する。

## 管理者の声

庄内平野の広大な農地に十分な水が行き渡るよう、用水管理には特に気を使っています。渇水期は川の水が少なく、思うように取水できないこともあり、田んぼが乾かないよう農家の方々と協力し、節水対策に努めています。また、日々の施設点検やゴミの除去は、毎日実施しており、安定した農業用水を確保できるよう、頑張っています！



庄内赤川土地改良区  
担当者 S.M さん  
S.T さん

# 農業用水の道のり

ぼくが教えるよ



とうしゅこう

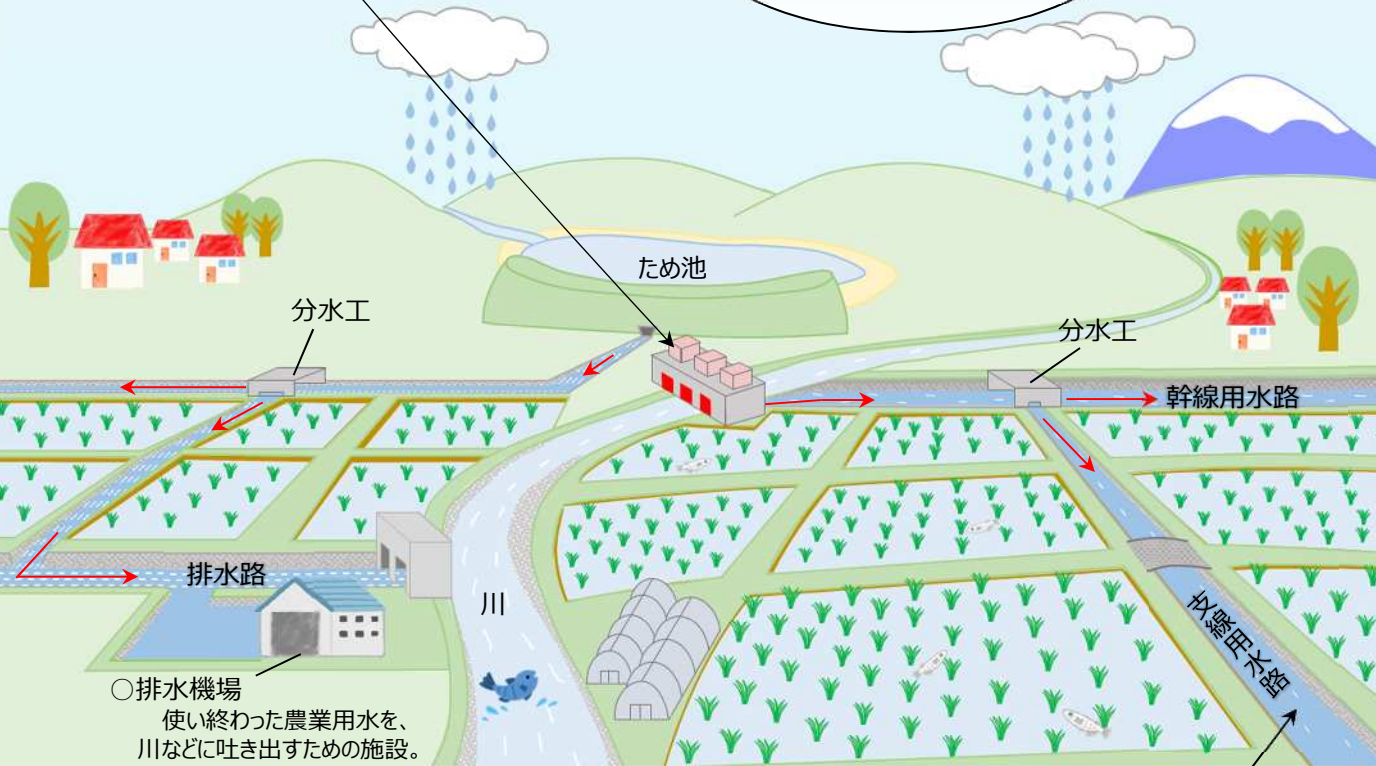
## ① 頭首工

川の水を農業用水として使用するために、水をせき止めて取り入れる施設だよ。写真は、鶴岡市熊出地区にある「赤川頭首工」。名前のとおり赤川の水を取り入れている、多い日は一日に約 35 億リットルの水を取水するよ。その水は、鶴岡市や酒田市、三川町の約 1 万ヘクタールの農地で使われていて、庄内平野のお米を育てる大切な施設なんだ。



①頭首工

頭首工は小学校のプールの水、約 8300 杯分も取っているのね！

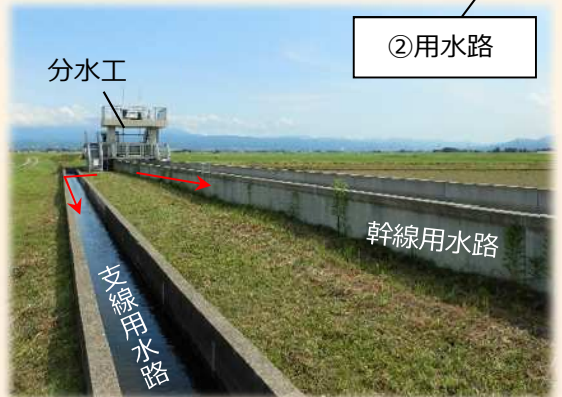


ようすいろ

## ② 用水路

頭首工などから取り入れた水を田んぼに運ぶための施設。

写真右側の水路は「幹線用水路」といい、頭首工から各地域に水を運んでいくとても大きな水路だよ。左側の水路は「支線用水路」といって、幹線用水路から田んぼに水を運んでいるよ。支線用水路の水はさらに枝分かれした小さな水路を通過して、やっと田んぼまでたどり着くんだ。また、幹線用水路から支線用水路に水を送る施設を、「分水工」というよ。



②用水路